

京都大学生態学研究センター共同利用事業・研究集会

表現型可塑性がもたらす間接相互作用
—異なる系の比較とその群集生態学的意義—

日 程：2007年11月10日（土）～11日（日）

会 場：大阪府立大学 学術交流会館 多目的ホール <http://www.osakafu-u.ac.jp/>

企画者：石原道博（大阪府大院・理）・大串隆之・山内淳（京大・生態研センター）

備 考：京都大学生態学研究センター共同利用事業の補助を受けて行われます。

大阪府立大学までの交通アクセス <http://www.osakafu-u.ac.jp/access/index.html>

キャンパスマップ http://www.osakafu-u.ac.jp/info/campus_map/nakamozu.html

プログラム

11月10日（土）

13:00-13:30 趣旨説明と用語説明

石原道博（大阪府大院・理）

13:30-14:10 ダイナミックな生物間相互作用：可塑性・進化・学習による改変

吉田丈人（東大院・広域システム）

14:10-14:50 表現型可塑性間のトレードオフ

—エゾサンショウウオ幼生の捕食者誘導型形質と被食者誘導型形質—
道前洋文（北大院・先端生命）

14:50-15:05 休憩

15:05-15:45 表現型可塑性に支配された相互作用

—エゾサンショウウオ幼生とエゾアカガエル幼生の捕食-被食関係—
岸田 治（京大・生態研センター）

15:45-16:25 被食者の捕食回避行動が食物連鎖の安定性に及ぼす影響

難波利幸（大阪府大院・理）

16:25-17:05 魚類の摂餌形態の可塑性と生態系安定性—試論—

奥田 昇（京大・生態研センター）

18:00- 懇親会

11月11日(日)

- 9:30-10:10 Indirect plant-mediated effects can regulate the population dynamics of herbivorous insects
Craig, T. P. (ミネソタ大学)
- 10:10-10:50 ヤナギの上の節足動物群集と植食性昆虫の進化：
食害が誘導する植物の再生長が持つ基盤的機能
内海俊介(京大・生態研センター)
- 10:50-11:30 植食者の寄主選好性と植物の直接及び間接防御の多種間比較
米谷衣代(京大・生態研センター)
- 11:30-13:00 休憩
- 13:00-13:40 食害のタイミングが決まっている場合の最適誘導防御スケジュール
山内 淳(京大・生態研センター)
- 13:40-14:20 群集レベルの形質変化：植物群集と土壤微生物群集のフィードバックモデル
三木 健(京大・生態研センター)
- 14:20-15:00 開花タイミングにおける表現型可塑性の分子生態学
工藤 洋(神戸大・理)
- 15:00-15:15 休憩
- 15:15-16:30 総合討論
コメンテーター：大串隆之(京大・生態研センター)
増田直紀(東大院・情報理工)

研究集会の趣旨

表現型可塑性と間接相互作用はそれぞれ進化生態学と群集生態学における重要なトピックとして、近年、活発な研究が展開され、多くの新しい知見が得られている。しかし、両分野間の連携はきわめて不十分といわざるを得ない。ところが、最近の群集生態学では、表現型可塑性によってもたらされる形質介在型の間接相互作用の普遍性とその生態系機能としての重要性について、注目され始めた。このため、間接相互作用の研究においては、群集生態学的観点だけでなく、進化生態学的観点からの研究が要求されている。同時に、表現型可塑性の進化の理解にも、群集生態学的観点が必要である。この研究集会では、形質介在型の間接相互作用をテーマに、群集生態学者と進化生態学者が一同に会し、話題提供と議論を行うことで、新たな発展の方向性を探ることを目的とする。また、様々な生物の系を扱う研究者が一同に会することは、植食者-捕食者相互作用と植物-植食者相互作用、あるいは水域と陸域といった異なる系の形質介在型の間接相互作用を比較する良い機会でもある。それにより、形質介在型の間接相互作用がもつ機能の違いを見いだすことができるだろう。以上の目的からも、この研究集会が、形質介在型の間接相互作用の研究に、新たなブレークスルーを起こすことを期待したい。